

## 七月作品

## 月集スバル

☆七月特別作品☆

井の頭線

小島 ゆかり 東京

春蟬の鳴く季へ近づいてゆく井の頭線ぎんいろでんしや

吉祥寺↓渋谷 あのとときこのときがゆれつつこゑのやうな陽光

ふるふると車輛はゆれて熟睡す蟬だつたかもしれない人ら

蜘蛛の網を迷ふばかりの渋谷駅はやく帰らん急行に乗る

春蟬になるかもしれぬまどろみのときはゆれつつ 渋谷↓吉祥寺

銀河の坂

島田 暉 神奈川

夕立の雨粒重き力もち叩き始めぬ古い人の顔

立ちあがるたびによるめくわれの上桜散りゆくあの世への旅

うとうとと寝そべるわが身はこちよしこの世の底へ落ちゆく時間

風に舞ひ蟬のぬげがら落ちてきぬ奈落の深きわが井戸の中

星の夜はなにか二人を近づけて妻とのほれる銀河の坂を

そのとき

鈴木 竹志 愛知

薄つぺらなビルが建ちたりそのときはいとたやすく崩れ落ちむか

そのときを意識しものを造ること忘れむとする空気ただよふ

人間は一時凌ぎに弱きゆゑそのとき来れば嘆くほかなし

事もなげに原発再稼働言ひだせる政治家ありてこの人は駄目だ

被災地に苦患つづくを忘れはて原発再稼働愚かにも言ふ

影

鈴木 千登世 山口

花に酔ふ人に酔ふまた風に酔ふ桜の千の目が見ひらけば

マスク脱ぎ落花の道をもとほればわれに影あること思ひ出す

さう言へば狸に影を盗まるる話聞きたりゼミ後の余白

うまさうに煙草すふ人消えゆけど記憶の部屋に缶ビール香る

満開の桜なら木陰こつそりと影を盗ることあるやもしれず

☆

☆



奥村晃 作\* 東京

水島晴子 兵庫

森重香代子 山口

いちにちのこれが愉快としやべりつぎ老いたる頬のうごきてやまず  
黄砂降り小暗きひるを藤棚にふち幾ふさのむらさきおぼろ  
浮かび来る(葉山郁)氏の一首句句(ナイフを蔵ひ居れば薄明)  
リカバリーと大谷は言ひヒット打つ リカバリーそれは水久のあこがれ  
窓のした土手に咲きゐるたんぽぽを目に追ひながらウォーキングする

武田弘之 神奈川

日影康子 富山

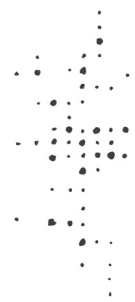
九十を一つ越えたる感慨を短く書けりけふの日記に  
早魃の庭の野菜や花々に水をやるなり虹立たせつつ  
スマホ見るよりも歌集を読むほうが楽し卒寿を越えたるわれに  
田も畑も埋めてビル群聳え立ち丹沢山塊見る由もなし  
まだ歌にならざる詩句の断片を胸内ふかく収めて睡る

高野公彦 千葉

影山一男 千葉

まどろみの中に思へり清流の鮎の優雅な(静泳止ぎ)を  
本好きで読書好きなる鈴木氏の書庫を見たしよその可動書庫  
もうろうと深夜に覚めて探り飲む酔醒めの水、いのち洗ふ水  
自転車で岩を越えゆくトライアルその凄技は少年の技  
亡き母を短歌で「亡母」と書く人をあの世で閻魔大王が待つ

若き女男歌つて踊る烈しさをマイケル・ジャクソンに見せてあげたい  
(ガール湯沢)(石打丸山)雪山のてっぺんから滑り降りし想い出  
はからずも谷川由里子(雪山)が書ききれし『象の眼』評に痺るる我は  
「二〇〇球と五九八首」のタイトルに納得しつづつ評文を読む  
身内の人が書いたみたい『象の眼』評、早川晃史また谷川由里子の  
土砂降りの雨に倒れし水仙が泥土を浴び立ち直りをり  
花の鉢抱へあるいま躓くな よろめくなかれ雨となる庭  
塀の上に撒きし古米に降りて来し烏羽色の一羽するどし  
散る花は翳ともなひて散りてくる昼のひかりの遍きなかを  
段丘の風にのりくる候補者の名を呼ぶ声は間を置きてする  
目のまはり赤きを見ればヒヨドリか朝ごと椿の蜜吸ひに来て  
寺背戸に路のたう摘みて帰らむとすれば手許へカラス飛び寄る  
亡き父が若き日植ゑし老桜樹ほのぼの庭隅に咲きていとほし  
寝むとして新聞の「コボちゃん」見ざりしを思ひ出したり寝床より出づ  
黄砂降ると聞けば広庭の草除りを休みて短歌詠みひと日を過ぐす  
教養はなけれど雑学多少あり手袋を双と数へることなど  
しなやかさ失くせし髪を梳きにつつ晩年に入るころ整ふ  
セクハラもパワハラもなさわが事務所ひとり働きひとり嘆きぬ  
ハラスメント鳥にもあらむ群なして尾長が鴉を囲む昼すぎ  
花水木の白を揺らして吹く風に身をゆだねつつ街川を越ゆ



桑原正紀 東京

スーダンの内戦聞けどスーダンの位置おぼろにて霧らふアフリカ邦人の安否をめぐり長き尺割けりいづれの局のニュースもウクライナほどには戦の実態が見えぬアフリカそれゆゑ怖い内戦や紛争の闇を跳梁し太りゆく武器商人がある  
蚕食の歴史とどめてアフリカはいちまいの葉の形をさらす

狩野一男 東京

五回目のワクチン済んで日が暮れて、春進み行き其の日近づく消し去つてしまひたいけど消え去らぬ去年の春のふたつ出来事路傍にはたくましく且つ単調に咲き、続きたりむらさきつつじさりのはな高井戸駅の桐の花四月二十日にもうはなざかり桐の花われに癒やしと安らぎを、時に勇氣や希望もたらす

宮里信輝 神奈川

一〇〇本のさくら満開風ふけどいちりんもなし散れる花びらうらうらに照れる春日に咲き満てり近くの川べりの一〇〇本桜一〇〇本の満開桜散り始む 空も地上もさくら花びら地上へと散りし花びらが呼べるらし枝にのこりてゐる花びらを一〇〇本の満開桜散れるなり うすもいろいろの時間、空間

木畑紀子 京都

ぼろんぼろん片手でわれが弾きてゐし子の古ピアノ今日でさよなら「われの子を」キーシンみたい」と褒めくれし先生は去年逝き給ふとぞ古ピアノ運び出すまへそうろりと聖歌数曲弾きて蓋とづピアノ消え部屋は空つばにぎやかに外の面の木々にスズメがうたふ湯豆腐に火をつけ一人飲まんかなブランクニツカの薄い水割り

大松達知\* 東京

貼り紙は、しばらくお休みしますからありますがどうぞございましたに代わる十二人にわれの名前を呼ばれたり大学病院滞在四時間疲れてますか、疲れておりぬ春の日の右眼見られている暗い部屋他人つてあつたかいよね、そうですね、そうですね、つて言ってくれるし下見のみして本番は無くなつて、本川小学校、袋町小学校

田宮朋子 新潟

ものの種まくと大地に手触るるは何がな浄し薄藍の空天へ向くロケット弾のかたちして畑に青きアスパラが萌ゆみづいろの春ぞらのうへ硫酸紙ほどのうすさの半月うかぶ山すそのうすべにいろを梅、桜、桃と見分ける遠景ながら黄水晶の原石のごと風塵にけむるビル街ゆふかげのなか

津金規雄 神奈川

独逸語の硬き響きに歌はれてイエス捕縛の楽は始まるヴァイオリンの装飾的助奏オペリガイトに支へられユダ悔恨のアリア放縦キリスト者ならねど受難曲聴けばその死を想ふころに深く恥づべきこと悔やまれること積もりゆきて過去すいめいは重し晩年に入る「マタイ」ヨハネ二つの受難曲ありてパツハの楽はここに極まる

小山 富紀子 京都

住職が愛子のやうに育みし雨情枝垂れが良き年頃に  
くれなるのつぼみひらけはうす紅の八重の花びら雨情枝垂れは  
江戸の世の二八娘といふ言葉雨情枝垂れの花にゆれをり  
蒼天の色の皿選りそつと乗す初ざくらとふ京のこなしを  
もう少し散らずに待たむと喜多さんの畑の桜きつと待ちるむ

清水 正子 神奈川

ギリシアには女神沐浴の泉あり空色とんぼがパトロールして  
地中海クルーズはよしギリシアよしコロナ禍ではれ断念の旅  
巣籠りに出番なかりしコート着てけふ会ひにゆく歌の仲間  
三年の空白あれどみな元氣、卒寿のひともびんしゃんして  
春先の風邪癒えがたし姥の身に荷の重かりしことは過ぎしが

後藤 美子 北海道

内向きのこころ励ます山に生ふる辛夷ひとと白く咲き初む  
降り出でし春の雲のつめたきにはなびら打たれ辛夷直立つ  
推奨の基準さまざまとりあへずマスク持参で自衛つづけむ  
教会の礼拝堂の椅子に貼る横長の紙 social distance  
パーティション隔ててマスクを隔てたる説教うすき印象のみ残る

福士りか 青森

一日を授業時間で区切る癖やうやく抜けて葉ざくらるとき  
この冬の雪の重さに耐へ来たるオオバコの上にさくら花散る  
四色のパブリカ切つて広口のびんに漬けたり春の集約  
いろどりも鮮やかに作るお弁当だれかのため」といふ喜びに  
けふ初めて髪を染めるといふ姪の心躍りや十八の春

藤野 早苗 福岡

仰臥して畳にとどかざりけりと房花詠みし子規の断念  
大楠を巻き締めながら上りゆくうすむらさきの愛は重たし  
もろともにあひ朽ちゆける楠と藤 愛と執着見極めがたし  
山藤ははびこりゆけり春ま昼限界集落民家を覆ひ  
さてもさても四月半ばの夏日けふ開口呼吸する猫に遭ふ

風間 博夫 千葉

顔が見え声が聞こえてさよならが言へて握手ができない Zoom  
奥様に持たせられたか自主的に持つて出たのか朝の生ごみ  
持ち歩くメモ帳、コンマ七ミリの黒ボールペンときにノックす  
ぱつちりとあけたひとみがしつかりと見た目葉のおちるしづくを  
コンビニに行け！ アマゾンのカード買へ！ すぐに行け！ すぐがどうも怪しい

田中 愛子 埼玉

まどぎはのひとりの席をかくほせり濡れたシヨールをとりあへず置き  
思ひ出の場面のやうに見てあたりかばんで雨をよけてゆく人  
手をつなぎしづかに雨をながめませうあなたも彼もみな母のない子  
へすし波奈もタツチバナカ 丹波氏とランチもたまたま注文したり  
すめらぎとあまぎの頭ぶつかりて「ごめんさい」とご夫君笑まふ





橘 芳 園 新 潟

ことごとくひいき力士の負けし夜同世代吉右衛門の(鬼平)を観る人の間はかりがたしと(鬼平)につぶやかせたり池波正太郎なまはら神仏おはすがごとき結末を安心しながら観る時代劇笠智衆、殿山泰司ら演じたるごとく僧侶を演じ得ざりき時代劇仕置きさるるはわれに似て金と女が好きな悪人

水 上 比 呂 美 東 京

クリスマスチャン・デイオール展に飾らるる一步も歩けぬタイト・スカート地球上の民族衣装を思はせるデイオールの服に着物めくあり仮縫ひの部屋の本白きドレスたちここから生れし始祖鳥、孔雀フラットな舞台は夜会マネキンとわれらが集ふ星電球の下クリスマスチャン・デイオール展のマネキンに異星人らがまぎれをらむ

原 賀 環 子 東 京

水べりに茫とし立てる男の子、八百歳の菊慈童はも長騰の少年めける嘘つかん エープリル・フル少女をさがす板海苔の五センチ方に佃煮ののりを載つけてけふは日本酒平和賞の大江さんかと錯覚すノーベル賞の講演きけは大江氏のぬない日本は不穏なり 失ふとなぜ分かるんだらう

水 上 芙 季 神 奈 川

バナナ一本もぎ取るときに前の世の猿の記憶の手つきになりぬ腹の子はまだ会へぬゆゑ平らかな白い自分の臍ばかり見る白黒のボーダーTの隙間からふあんふあん立ちのぼる息郵便受けに行くことさへも億劫でんたう虫チヨコレート食みをりいくらでも眠れる真昼しづしづとシルクロードゆくアルパカの列

大 野 英 子 福 岡

ハイウエストのベルトの位置が頼もしき吉田正高の差し歯眩しい赤文字のJ重たげに深々と被る大谷セツトに入る濁りなき白眼と深き眸眸の大谷翔平の見つめる一点泥だらけ汗まみれなるリリーフが振りかぶる最後となる一球WEBといふ文字さへWBCに見える遠くの桜満開

松 尾 祥 子 東 京

四回転、四回転半、その半のマリニンの努力おもひみるべし臘梅の香りに目ざめゆく身体風に向かひて一步踏み出すコロナ禍を経て鯉のぼり五百匹はためけり南清里の空螢烏賊ぬるりと喉くだりゆく菜の花畑に月のぼるころ語りあふ寿命と健康寿命の差ほろ苦き露の臺を食みつつ

小 島 な お \* 東 京

てのひらに耳のかたちのスプーンが馴染んだ頃につつじが咲く東大式麻雀入門注文し猫の鼻血の飛沫の掃除もうずつと置きっぱなしのギターもうずつと行きっぱなしの飛行士SFの世界の桜はにんげんを救わないって言っていたのに「ユリの花は美しく誰をも魅了します。しかし」で途切れるリンクは押さず

小田部 雅子 静岡

齊藤 梢 宮城

荒れあれて田の名残あるひとところ小さきみどりに芹の香がたつ  
暴力を呼び込む政治問はずして口々に言ふ「暴力はダメ」  
権力の横暴つづく政権が野放しである 政治は暴力  
ニンニクに錆病いでてたちまちに腐つた政治のごとくはびこる  
贈られしルバーブ・ジャムのおだやかな酸味に目覚む今朝のこころは

わが夫が開けしカーテン閉めてをり二人くらしの三寒四温  
夜の風が口内炎にしみるとき生きればこそその桜と思ふ  
春を泳ぐさくら花びらひとつふたつ今かなしみが風に触れてる  
散らないといふ選択のない桜散り急ぎをり未来のために  
散りゐるも咲きゐるもありさくらさくら病床の母は見ることできす

詩歌句レッスン ● 小島ゆかり

一歩踏み出す勇氣

《新聞転載》

今回は、一歩踏み出す勇氣について。自分の歌というのは、考えれば考えるほどわからなくなってしまうもので、推敲の末に、少しまとまりのよすぎる、あるいは少し常識的な表現を選んでしまいがち。そこを一歩踏み出す勇氣についてです。今回も、短歌教室や大会などで実際にアドバイスした作品を紹介します。

〈くもの巣も蜘蛛もひかりで揺れてをり  
台風一過の空を仰げば〉

台風一過の、澄んだ青空でしうか。  
「くもの巣も蜘蛛も」と捉えたところが鮮やかですね。せっかくなので、一番大事な歌の中心を、もう一歩踏み出してほしいです。

〈くもの巣も蜘蛛もひかりの波動なり  
台風一過の空を仰げば〉 (添削例)  
台風一過という大きな言葉を、より生かせると思います。  
〈今宵またワールドカップの映像は深夜のわれを梟にする〉  
共感する読者が多いのではないでしょう。夜行性の梟が眼を見ひらく様子が想像されて、じつにおもしろい発想です。このままでも十分にいい歌ですが、さらに一歩踏み出すと、こんなふうになります。

〈今宵またワールドカップの中継が深夜のわれを梟にする〉 (添削例)  
「映像は」と「中継が」のちがいが、よく確認してください。

〈医院でもバスの席でも隣り合う人と知り合う媼になりぬ〉  
なんだか笑ってしまいますが、じつによくわかる歌です。ただし、「隣り合う人と知り合う」あたり、気になりますね。そこで、いっそこんなふうにしたら。

〈医院でもバスの席でも隣り合う人とすくししゃべる媼になりぬ〉 (添削例)  
字余りでも、歌が生き生きとするはずです。  
最後は、コメントなし。二首を比べてみてください。

〈形よき富士今日見えてふるさとは葡萄一色秋の陽光る〉  
〈形よき富士今日見えてふるさとは葡萄の秋のぶどうの光〉  
推敲の最後、一歩踏み出す勇氣をもってください。